

催眠にかかった？お尻丸出し女子部員♡





私は水泳部員の桃瀬みずなです！  
幼い頃から水泳をしていて、  
進学後すぐに水泳部に入部しました。

環境には満足しているのですが、  
実は困ったことがあります…。





「えっ!? また催眠ですかあ?  
ずっとやってますけど、はつきり言って  
全然効いてないじゃないですか。」

「集中力が高まるって言うんで続けてますけど...。  
特に変わりはないですよ。」





催眠にっつている先輩が、  
しつこく私に催眠をかけてくるのです。  
私にはまったく効いていないのですが、  
先輩の熱意に負けて、毎回催眠に付き合っています。

(ていうから、この先輩、私のことを催眠で言いなりにでも  
したがつてるんじゃないのかな？ふふっ♡  
かかるわけが無いから、別にいいけどさ。  
催眠なんて作り話だって、わからせてやるんだから！)

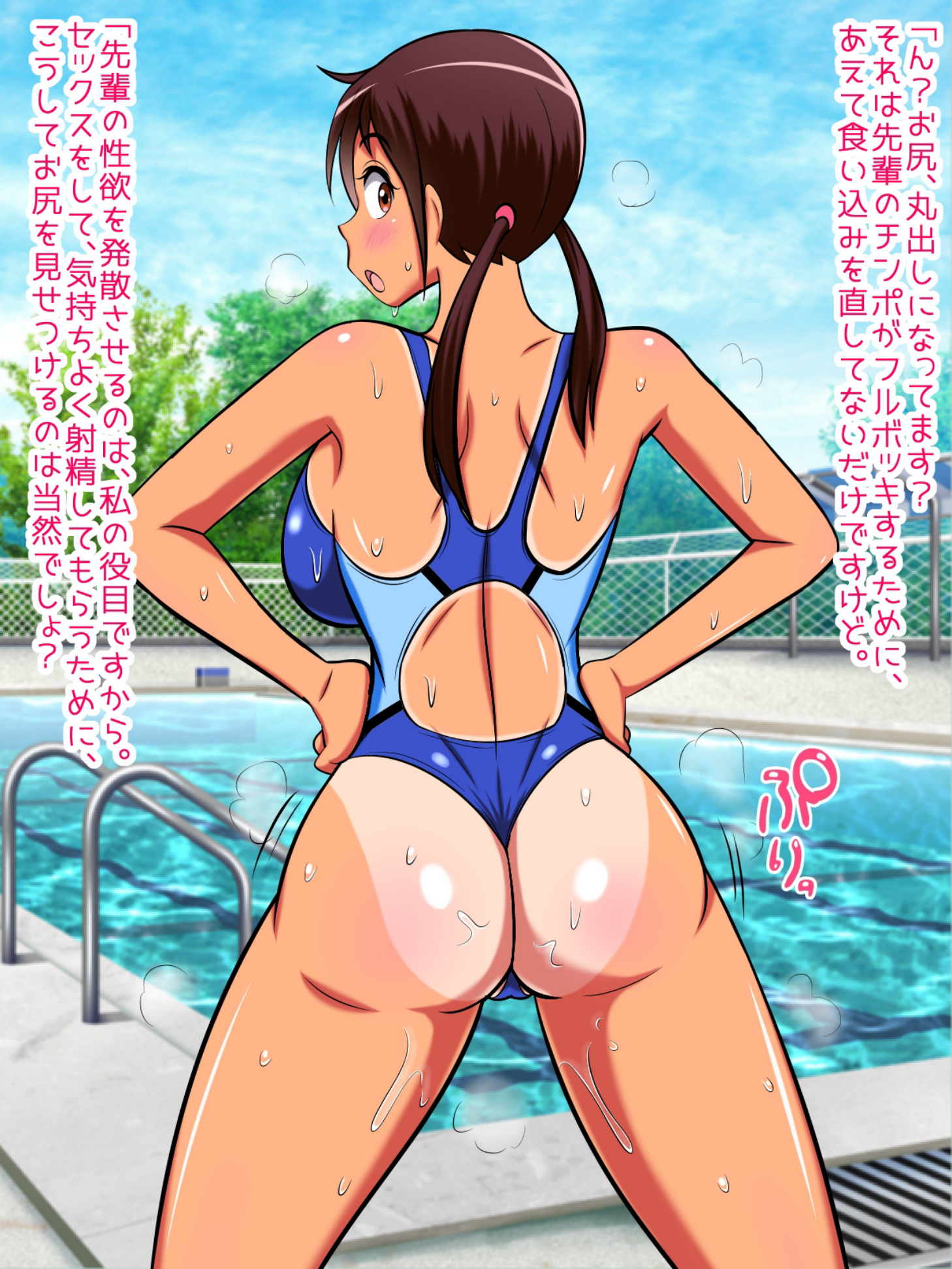




「ん？お尻、丸出しになってます？  
それは先輩のチンポがフルボッキするため、  
あえて食い込みを直してないだけですけど。」

「先輩の性欲を発散させるのは、私の役目ですから。  
セックスをして、気持ちよく射精してもらったために、  
こうしてお尻を見せつけるのは当然でしょう？」

ぽり





「私は特に、お尻が大きくていやらしいから、  
すぐに男子をボツキさせちゃうんですよね。  
チンポが立ったままじゃ、泳げなくてツライでしょ？  
あははっ！」

「あら、ボツキしちゃいましたか？  
じゃあセックスをしましょうか。  
お尻を突き出すので、  
好きなように楽しんでくださいね！」





「今朝のセックスもすごかったですね〜♡  
せんぱいがチンポを根本まで  
突っ込んでくるのが気持ちよすぎて、  
簡単にイカされちゃいました♡

私は命令されるまま、セックスをするために  
先輩に向かってお尻を突き出しました。  
先輩は私の大きなお尻が大好きです。  
いやらしくお尻を振って、チンポを誘います。

お尻♡

お尻♡





「あんっ♡お尻ナデナデされるの気持ちいいー♡」

普段からさわられているせいか、お尻が感じやすくなっています。力強い手でお尻をもまれると、簡単にオマツコを濡らしてしまいます。

あ♡

あ♡

あ♡

ナデ

ナデ





先輩は私のお尻をしつていくらい  
なでまわしたり、もみしだいたりしてきます。  
私もそれが大好きで、  
イキそうなほど感じてしまいます。



もみ!

もみ

ヌク...



うっ!!

ズボ

ビク!!

「あーんっ!?  
チッポはいつたあ!  
すすぞおい♡♡  
きもちいい♡♡

先輩は私のお尻をなでて  
フルボツキすると、一気に  
チッポを挿入してきました。

ビク♡♡

おまんこ♡♡

ビク♡♡





ズッコッコ♡

はッ!!  
はあッ!!  
ズッコッコ!!

10/10  
10/10

「あんあんあん♡  
もっとお♡私のおしり  
楽しんでくださあい！」

先輩は腰をお尻に  
打ち付けるように激しく振ってきます。  
私はお尻をしっかりと突き出して、  
チツポがオマツコの中を  
ほじくる快感に身をゆだねます。

あッ♡

はッ♡







うづうずー!!

ズッ♡ズッ♡  
コッ♡コッ♡

110%  
110%  
110%

「おっおっおっ♡  
腰振り速くなってきたあ♡  
射精ですな! 思いつき♡  
精子をうちこんでくださあい♡

あゝ♡

おお♡



おお!!

とろとろ!!

とろとろ!!

「おお——っ!?  
射精きたあ〜♡  
いいよあ、うっぱいはいつてる!  
いいいくいく〜!  
私もイッちゃう〜♡」

お♡♡♡♡♡





あゝ♡  
は♡

コエ〜っ!? まだ出てる!!  
すごいよお♡私のおしり、  
そんなに気持ちよかったんですか!?  
うれしく♡全部オマソコの中に  
出し切ってください♡

フー!!  
びびび!!  
びびび!!



ゴゴ

ゴゴ



「はーっ、はーっ……♡  
先輩のチンポ、  
すどかつたあ……♡  
やっぱり、セックスって  
最高ですね♡

私は先輩に射精されて、  
最高に気持ちよくイキました。  
オマシコから先輩の精子をたらしながら、  
セックスの余韻をじっくりと味わいました。





「と」ところで、催眠には  
いつかかるとは思いますが？  
いつもと変わらなく、自分の意思で  
セックスをしてるんですけどね。

ビクッ♡

は♡

は♡

当たり前ですが、私は今日の催眠にも  
まったくかかりませんでした。  
ちゃんと自分からセックスを楽しめまし  
とても気持ちよくイクことができました。

うーん♡♡♡

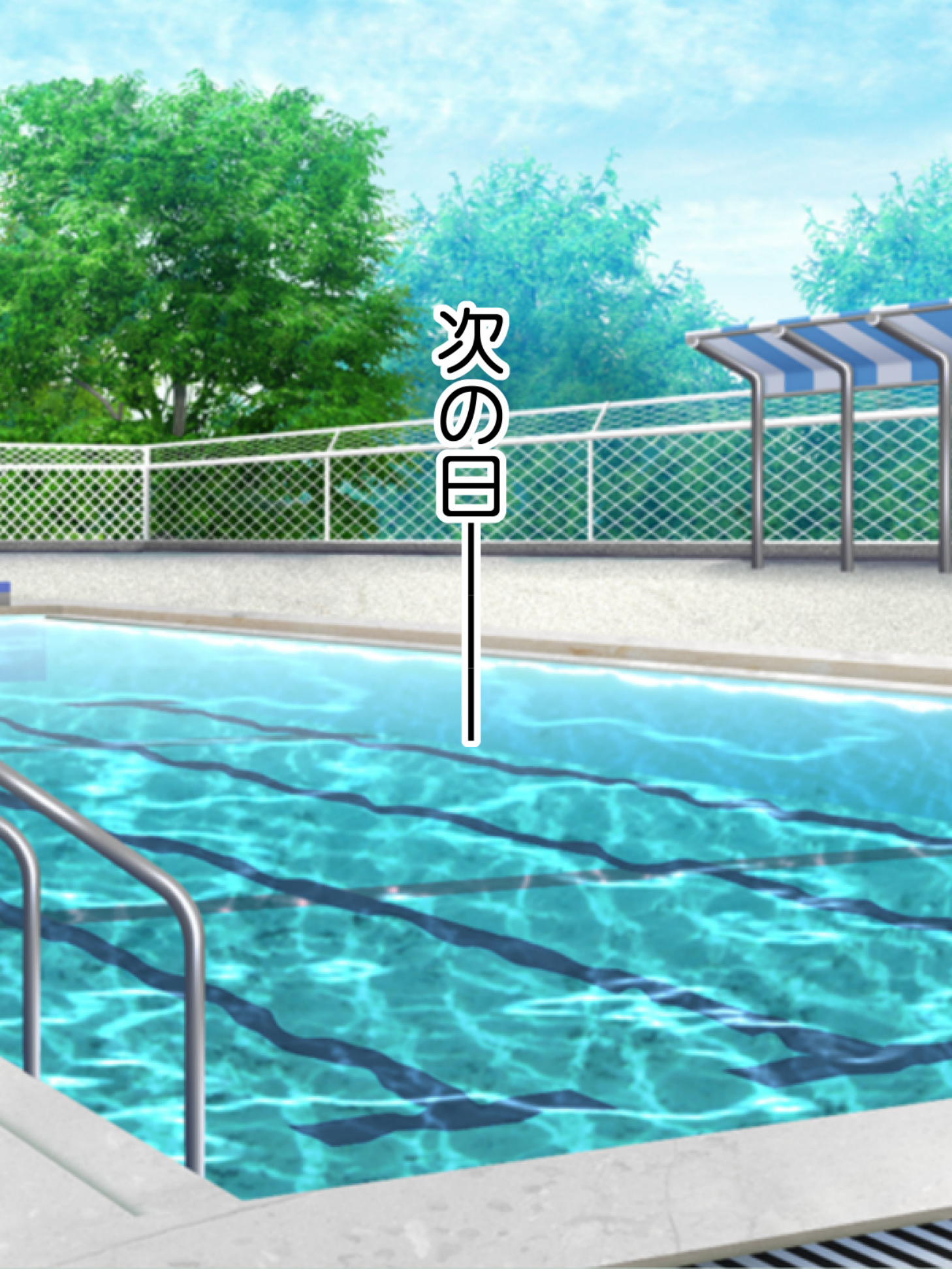
ビクッ♡♡♡

ポタッ





# 次の目





「ふう、昨日のセックスもすごかったなあ……♡  
体の調子もすごくいいみたい！もっともつとセックスをして、  
最高に感じやすいカラダになりたいなあ♡

セックスはすればするほど、感じやすくなるみたいです。  
練習中も先輩のチンポで遊んでもらいたくて、身体がほてっています。





「あ、先輩！また催眠ですかあ？どーぞどーぞ、  
いくらでもかけていいですよ！  
…え？昨日はかかってました？

「かかったから、お尻丸出しにしたり、セックスをさせたりしてるって？  
そんなことないですよー。私がやりたくて、やってるんですから！





「オナニーの回数!?  
そう…そんなの、女子に聞くことじゃ無いでしょ!

「…でもまあ、毎日してますよ。  
多い時は1日5回くらい…。ローションを使って、クリトリスをいじると  
すぐイッちゃいますね。割と太いオモチャをマスコに突っ込んだり、  
こうもんにも入れてみたり…。乳首もすぐく感じます。」

うん♡





「おおっと！おしりが丸出しになってなかった。  
こうやってしっかり出しとかないと、先輩の  
チンポがフルボッキできませんよね♡

ぱりん♡♡





「うん、やっぱり私も食い込んでる方が  
気持ちいい♡どうですか？私のお尻、  
じっくり見てやってください！」



は♡



「あれ、もうチンポたうちやいました？  
私のおしりがエロかつたんですね！  
うふふ♡射精したいですか？」



♡チンポ♡





「んぶぶっ!?  
んぐちゅぽぽっ!」

んぽぽ

んぽぽ

先輩は私の頭をつかむと、いきなり  
チンポをくわえさせました。  
突然の口淫開始です。  
私は驚きつつも、しっかりと口のなかで  
チンポを味わいました。  
なめまわしました。





「じゅるぽっー！ジユポジユポー！  
ずぞぞ、うっ♡じゅっぽじゅっぽー！

あゝゝゝ！！

あゝゝゝ！！

あゝゝゝ！！

あゝゝゝ！！

あゝゝゝ！！

あゝゝゝ！！

あゝゝゝ！！





私は普段からチンポをなめさせて、  
気持ちいいやり方を教え込まれているので、  
先輩を思い通りに楽しませることが出来ます。  
わざわざ汚らしい音をたてながら、  
チンポを最高に気持ちよくさせます。

はあ!!

あ!!

はあ!!

しゅぽ!!

ちゅぽ!!

うい!!

しゅぽ!!





「んぶぶっ!?ぶぶっ!  
ちゅううううっ!」

先輩はうめきながら、  
精子を大量に私のくちに流し込んできました。  
射精している瞬間は一番気持ちいいので、  
私はより激しくチツポにしゃぶりつき、なめまわします。



「んぐぐ、ぎゅ、ぐぐっ！  
ぐぐん♡」

先輩は遠慮なく、私に精子を飲ませます。  
よほど気持ちよかったのか、いつもより長く  
射精が続く、くちの中は精子でいっぱいです。





射精して間もなく、先輩の  
チンポがまた  
ビッビッにボッキしました。

「え〜!? またボッキしてるぅ♡  
もう一回チンポって  
欲しいんですか?  
私の口淫、前より  
上手になってたんですね!  
うれし〜♡じゃあ、  
遠慮なく  
チンポくちえさせて  
もらいますね!♡  
あ〜ん♡

ぽりっ

ぽりっ♡

ちゅっ

へっ!!

グクグ

ん  
ふ〜♡♡

ぷるん

ふ〜♡





「んじゅる、チュポチュポ！  
ちゅるぢゅぱー！チュポッ！」

今度は私を  
四つん這いにさせて、  
お尻を眺めながら  
口淫を楽しんでいます。  
さつき射精したばかり  
なのに、チュポはとても  
かたくポッキしています。





「おぶっ!? んぶぶら!  
じゅるる、じゅぽっじゅぽっ!!」

先輩は我慢せずに  
即出しです。  
射精に合わせて、私も  
より快感を与えるために  
舌でぐるぐると  
なめまわします。

ブルン!!

うっ!!  
うっ!!  
うっ!!

うっ!!  
うっ!!  
うっ!!

うっ!!  
うっ!!  
うっ!!

うっ!!  
うっ!!  
うっ!!





「んぐ、ぐくぐく！  
ぎゅんっ！」

精子を飲みこむ  
私をながめながら、  
満足そうに射精しています。  
私も、精子を飲む行為に  
興奮して、イキそうなほど  
オマンコが  
濡れてきました。

すくすく

ニやほ♡

ん♡

びっ！

はあ！！

ひん！

ニやほ♡  
はあ！！





「いやあ〜ん♡  
さすがにこんな格好、  
恥ずかしいですよ♡」

ぷりん♡

ん♡



練習が終わったので、  
すぐにセックスをします。今日はガニ股で、  
お尻を突き出すように命令されました。  
恥ずかしいポーズに照れつつも、  
先輩が喜んでくれるように  
思い切ってお尻を突きだしました。



先輩は大喜びで、じっくりと  
私のお尻を観察しています。  
自分の下品な姿を見られるのは、  
恥ずかしいけどとっても興奮します。

はっ♡

はっ♡

プルッ♡

もわっ♡

プルッ♡

「えっ？クリトリスも膣の中も丸見えですか？  
もうもんでもぱっくり開いちゃってるなんて…♡  
やだぁ！もう、先輩だけですよ、こんな格好して見せるのは♡



「あー！言っておきますけどお、  
これは催眠にかかってるわけじゃ  
ありませんからね！  
ありまして楽しんでもらえるのが、  
私のお尻を楽しくやってるんですよ、  
心から嬉しくてやってるんですよ♡」

ふ♡

ふ♡

ふ♡

ふ♡

ふ♡





「でもお、先輩のチンポの言いなりにはなってるかも!!♡」  
「チンポ欲しさになんでも言うこと聞いちゃってるのは、認めますよ♡」

「はやくチンポをいれてくださいっ!」  
「ずっこんばっこん出し入れして、思いつきイカせてくださいあい♡」



ふ♡

ふ♡

うず♡

うず♡



「あっあっ♡やぁん♡  
きゅもちい♡♡♡

先輩にお尻を観察されて、  
すごく興奮していたようです。  
オマツコがありえないほど  
ヌルヌルになっていて、  
滑り込むように、一気に根本まで  
チツポをくわえておことができました。

ビクッ♡♡

ズッ♡♡♡

お♡





おお♡♡

め♡

すぽ♡

「おお♡♡ おお♡♡  
さいこー♡ たまらなくきもちいいよお♡  
チンポがあつたら何もいらないよお！  
ずっとセックスしてたいよ」

すぽ♡♡

すぽ♡

は！！

は！！





「ああんっ!? チンポ膨らんできたあ！  
妊娠させる勢いで、思いつき射精してくださあい♡」

は♡

あ♡

ズッ♡  
!!

ズッ♡  
!!

はあ!!

はあ!!

ズッ♡  
!!



「おお——っ!? しゅぞいおい♡  
精子とぽどぽはいってる!♡  
いくっ♡ イッちゃっ♡ イッちゃっ♡♡

いっ♡♡♡

いっ♡♡♡

ビク♡♡♡

ビク♡♡♡

ドクドク!!

ビクビク!!

ビクビク!!

おお!!

おお!!





「きゃ——っ♡射精ながいんですね♡  
に♡妊娠しちゃっ♡こんな精子を出されたら  
絶対妊娠しちゃっよぉ♡」

お♡♡♡♡♡

ん♡お♡♡♡♡

ん♡♡♡♡

ん♡♡♡♡

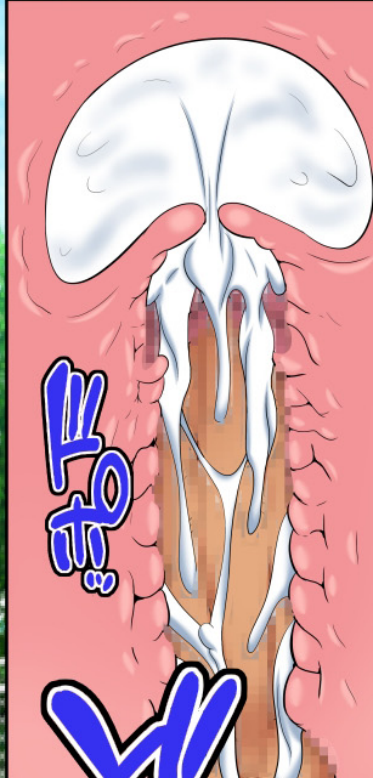
ん♡♡♡♡

ん♡♡♡♡

ん♡♡♡♡

ん♡♡♡♡

ん♡♡♡♡





「はーっ、はーっ……♡しゅしゅしゅぐすぎい……♡  
妊娠したら、先輩のチンポで毎日ほじくってくださいな……♡  
今回は、過去最高の絶頂を感じる事ができました。  
先輩もこんなに精子が出ちゃったのは初めてだそうです。

もわぁ……

ぽん♡

びんぽ♡

は♡

びんぽ♡

精子のキツイにおいに包まれながら、  
私は立ち上がることもできずにセックスの余韻を  
味わっていました。

は♡





「はあ、はあ…♡もう、先輩のチンポのいいなりになっちゃいました♡  
これって、催眠にかかっているのとかわからないかも知れませんか…♡

もわぁ…

ぽん♡

びん♡

は♡

びん♡

は♡

こんなセックスを続けるうちに、  
私はめでたく妊娠しました。  
当時は学生だったので大変でしたが、  
今では良い思い出です！